

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1425
施設名	目黒東山ちとせ保育園
施設所在地	東京都目黒区東山2-10-17
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「食べ物」～収穫から調理、食事を通じた食の探求～

<テーマの設定理由>

園の活動の中で子ども達が食材の成り立ち、栄養表など、食や健康の過程に興味を持って居たことから、「食」をテーマに探求活動を実施した。園の活動で決まっていた芋ほりを掛け合わせた収穫から調理、食事までの活動をきっかけに子ども達の興味が「調理」に向けたことから、「調理方法の違い」「味の変化」「栄養バランス」など、テーマを広げながら活動を行った。最後には、毎年園で行っている「はばたきカレー」（はばたき組園児がオリジナルで調理するカレー）の調理活動と掛け合わせ、栄養士と実際にレシピを考えるとところから食材選び、食材購入、調理まで自分たちで行う活動を実施する。子ども達の興味・関心から、計画を柔軟に発展させることを意識しながら、食材の特性や調理のプロセスを体験する事の大切さに重点を置き、理解を深めることを目指した。

2. 活動スケジュール

10月:芋ほり活動、スイートポテト作り

11月:芋ほり後の芋洗い、大学芋作り

12月:栄養士と共に炊き込みご飯の調理方法を考える

1月:炊き込みご飯の食材決定、買い物活動、食材の切り方を予め子どもが決めた上で調理実践

2月:はばたきカレーの食材決定をし、担当決めや野菜の切り方等を決める。買出し、調理実践

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・調理した食材関係（スイートポテト、炊き込みご飯、はばたきカレー）や調理器具
- ・ホワイトボード、マグネットシール（食材群の分類、材料決め）
- ・PCやスマートフォン（子どもたちの考えを記録・共有）
- ・栄養士との連携（食材の栄養バランスについての助言、調理の補佐等）
- ・地域のスーパー・八百屋との連携（食材の種類と購入プロセスを体験）
- ・芋ほり遠足に掛かった費用（バス代（運転手・駐車場、ガソリン代含む）、芋代、農園代等）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

芋ほり活動を皮切りに、子ども達はさつまいもを用いた様々な料理に挑戦した。

スイートポテト作りでは、「甘くて美味しい!」「もっと食べたい!」といった声があがり、甘みの変化に興味を持つ詩型が見られた。

大学芋作りでは、「カリカリしているところとやわらかいところがあるね!」と、調理方法による食感の違いに気づく子どももいた。

炊き込みご飯の調理では、栄養士と一緒に適した食材に検討し、「どんな野菜を入れたら美味くなるかな?」「にんじんを入れると色がきれいになりそう!」といった意見が飛び交いながら、食材の切り方による見た目や味の変化を体験した。1月には子どもたいが主体的に食材を決定し、「どこで買うのがいいかな?」「スーパーと八百屋さんでは違うのかな?」と考えながら、スーパーや八百屋での買い物を行なった。食材の選び方や価格、鮮度について学ぶ機会となり、実際の調理活動では食材の切り方を工夫することで「こっちの切りの方が食べやすい!」「ゴロゴロしているのも美味しいね1」と、それぞれの違いを楽しんだ。

2月には「はばたきカレー」の材料決めを行い、「じゃがいもが黄色いグループだよ!」「緑のグループから何を入れよう?」と、食品群を考慮しながら選定した。買出しでは、スーパーを訪れ、店員との関りやお金のやり取りをする記帳な体験にも繋がる。調理では、子ども達が役割分担をしながら、「私は玉ねぎ切るよ!」「じゃがいもはどうやって切る?」と相談しながら、切り方や調理の工夫を取り入れ、最終的に完成した「はばたきカレー」をみんなで味わう。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

10月 畑で大きなさつまいもを収穫!!!!



自分が掘る場所が分かると一所懸命掘り、さつまいもの収穫を楽しむ姿があった。

その後、収穫したさつまいもでどんな物を作りたいか子ども達同士で意見を出し合う。発言から出た意見の中で自分たちで作れそうなものは何かを子ども達へ問うと「大学芋」と「炊き込みご飯」の2つになった。まず、「大学芋」のクッキングから始める計画を子ども達に話すと期待感から自由あそびの時にままごとで「大学芋作り」の真似をするといった心待ちにする様子が窺えた。



1月 炊き込みご飯

炊き込みご飯の材料を子ども達と買出しに行く。道中子ども同士で回るお店の名前を確認したり、話をしたりして楽しみにしている姿があった。八百屋ではお店のおばあさんと「〇〇ありますか？」などと言い、やり取りしながら楽しそうに買い物をする事が出来ていた。お金のやり取りも子ども達に促すと「おつりは〇〇円だ！」と言う子もいた。スーパーでは様々な食品を見ながら必要なものがどこにあるか店内をよく探し、見つけると子ども達で選んで買うことが出来た。選ぶ時も「お金は〇〇円持ってます」「いくらなら買えるかな？」と聞きながら選んでいた。

炊き込みご飯作りでは、炊きあがる音がすると「できたよ！」と友だちに教え、嬉しそうにしていた。順番に炊きあがったご飯を見ると「おいしそう」「たくさんできたね」とそれぞれ感想を保育者や友だちと話して共有していた。



2月 はばたきカレー作り

はばたきカレーの中に入れる具材は何の切り方があるか子ども達に問うと「乱切り」「半月切り」「スライス」などが出た。具材に合わせて保育者がどのような形状になるかイラストを用いると「いいね」「ダメだね」と保育者の意見を参考にしながら切り方を決めていた。

完成が近づいてくると「いいにおい」「おいしそう」と言って鍋の中を覗き込んでいた。自分たちでご飯とルーの盛り付けられるよう準備すると食材を選びながら盛り付けようとする姿があり、「じゃがいも大きいね」「お肉入った」と嬉しそうに報告していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当初の計画よりも子ども達が調理方法や食材の組み合わせに強く関心を持つことが分かった。五感を使った体験を通じて、味や食感の変化に対する気づきが深まり、食材の切り方による見た目や食感の変化にも興味を持つようになった。また、買い物活動を通じて、食材の選び方や価格、鮮度について学ぶ機会となった。友だちと力を合わせて準備から調理、食事と全てのプロセスに関わったからこそ、クラス全員で味わう「はばたきカレー」は、子ども達にとって貴重な体験と同時に記憶にも残る経験となった。

さらに、家庭との連携も深まり、保護者の方から「家でも料理に興味を持つようになった」という声が多く寄せられた。今後は、食材の調理方法をさらに探求し、子ども達の気づきに耳を傾けながら、異なる料理への応用を考える活動を計画していく。また、保護者の方との連携をより深め、家庭での食育活動にも繋げていく事を目指していきたい。子ども達が「次に作りたい料理」を考え、さらには「自分たちが作ったものを食べてもらう喜び」が体験できるよう、主体的に計画を立てる機会を増やし、自ら探求する力を育てていく。